華鳥文庫

全

華鳥文庫序

聖藏同胞

夫慕古歌今導今歌古者所以移風易俗也
觀今而歌今者感物而發言者也然而所發其
言若有清濁鄙雅之不相同焉其情志正則
所其言必清而雅其情志不正則所發其言必
濁而鄙也詩哥連誹皆動心而發言者其義
一也予友五春莊主人貫通于此道而其所言者句
咏二無不温雅者遊行於遠道遠於近而至章爲
山佳句爲惟依揮以今四時文錄諸者所嗛之

秀咏附以圖西石謂華鳥文庫志此道者以此
書為文庫而咏花鳥風月則猶登堂而入室ハ龍
屋以探玉乎聊述鄙懷以書卷端見者以為改
之則倖也乎哉
文政二年歳在己卯春三月題于竹門書屋
阪阿逸民 龜文

花鳥文庫

浪華五春莊井眉選

春之乾坤

春

其河とはなれたる人も花よ鳥　自樂
なつかしや都もちかく灯の影　越前宿見　金流
月は春ゆえ伝ふ琴はなつかしや　陸奥宿見　芳裔
山月やちりてさびしき雪の宿　治見　山流
元日
元日の華や稀なる年の糸　井九
元日や人のまれなる山住居　永色
なつかしや雪とうたふて鈴の音　クツミ　楽土

[illegible]
[illegible]
初空　肥後熊本　三秀
初鶏　自楽
初鳥　仝
初日　千鶴
御降　伊丹
鍋縄　江戸　[illegible]
初氷　亀友
福寿草　五仙
[illegible]　岸和田　狐哺
[illegible]　井右
[illegible]　五仙

雑煮　[illegible]　河内　五峰
子日　子日初の古る[illegible]　江戸　菊塢
人日　人の[illegible]　出雲　井丸
人日乃[illegible]　ナニホ　一雙
蔣の朝三[illegible]
[illegible]入年[illegible]　月巣
[illegible]　千鶴

宗賀

水おとをきくや宗賀が朝朗　備後尾道　東耕

明よりはるかすさえかすかの雨の音　江戸　鶴頂

霞

物と枝行日かすかに霞ませて　芳爺

霧ふかき山ハのたきこゑ　亀友

鳴根ふく風も水ぬるゝ霞　ツシて　此石

夕霞小牧ゝ山ハ光よりゝ　日　菫山

八重かすゝ鳥はすゝの霞ぬる　名古屋　地風　九人

春雪

春の雪ぬの糊しゝ降よりゝ　出羽土崎　宗賀

ゝはは雪降ゝふて仕舞ぬる　武州秩田　花栖

ぬ乃ゆき只ふしゝ降はゝゝ　自楽

長閑

長閑ゝしゝふよ白帆を上はゝ　仝

はゝゝを重ねて行ゝ牧の笠　ツクシ　梅調

長閑ゝ鶯や行ゝ牧の笠　五峰

かゝゝ月を行ゝ行ゝ牧の首　自楽

ぬゝゝ月や行ゝ行ゝ牧甲　仝

ぬゝゝ牧の竹ハ結しゝ日ゝ　九人

傷炎

傷や行ゝ行ゝ二ゝの竹の焼　ヒゴ熊本　久志麿

鶯の啼む音ゝ行ゝ行ゝ　イヨ今治　其梅

かゝゝふに梅ゝ行ゝ行ゝ　笑歌

春

傷や行ゝを行ゝてゝ行ゝ　出羽秋山　石泉

傷行ゝ行ゝ春のかゝみをわゝ履　備後福山　古井

かゝゝ鳥と水ゝ行ゝ行ゝ山ゝ　光春

春山　此こゝや堺もひろく春の山　三津人

春海　伏もなる海の中こそ春の海　其磐

春風　春風の鐘ふるまつの風　仙タイ　雄潮

春水　柏の葉ゝ春の水　玉叟

春月　人なつかしき吹ふきまつの風　花月

春夜　夕月夜のたゝきぬゝの夜　他田　呉考

春雨　春の雨むしの人の哭て　他後　一嶺

春夜　春の夜の人の寝る夜ひろう　柯亭

春月　まと蓋はつまゝゝゝや春の月　竹末

春月　まつのみの乃紅ハせるを　タンハ　武陵

春月　梅ゝゝ井戸ゝゝゝゝゝ　江戸後山　寒杉

春月　物ゝゝゝゝゝ　タンハ　由儀

八巾。　八巾ハ春ゝ上ゝゝ山の雲　秋田戸鈴　菓雄

八巾　春ゝ初ゝ風ゝ　ハ角間門　東雪

二日灸

雜

如月

三月

行春

春もやう巨燵新たて二日灸　和泉王子　八亀

春の夕部の名残よ夕雀　玉叟

雉ものこりふるふて帝雛　井九

きさらぎやてにをはの浦の山　芦々

三月はすなはち不二は桃　洛　桃寮

三月はすなはち鳥の名残　自楽

ゆけはやて年はなれて浮はなれ舟　仝

春の柳はなれ小花や三月雪　周防宮　雪香

はるはあるを待くうれの綾　自示

春をやの鳥はなるし　仝

ふるはる春いつまてう美はなる　黄山

春滅やれ杉繁かるふるは　墨夕

神せはは人にはやはは減るは　雄春

はるの名はるはさよはの海　イキ　三千雄

春をやの馬の鬣動くも　井角

鶯

春生類之部

鶯はまはまはるの旭うの　洛　雪雄

ふるはやふ名はは上も日和風　杜田花鈴　章丈

春やの高根はをまて帰　自楽

山ふこえふ春はは春　花月

春の鳥をはふはを月よまて　仝

呼子鳥　江戸石井　里童

雲雀　仙台　百非

燕　イワミ　大牛

鳳　出羽花鍛　生芳

引雀　芳戸小淀　芳拓

雲入鳥　芳雪　梅後

雀　ツレて　百仲

蝶　千野

山深く分れあれて蝶きれて　ツレて　戴蝶

蝶もいさ答へんよりは二ツ山　日　朱指

ものさ風を通る風よりの蝶　出羽　南桂

若草小方多　賈　庖

蝶々や雲にひらひらとけさてけり　出羽角間川　梅女

蝶々の第にはやる羽蝶　其智

蝶も眠をさませ日和の皆よりも　子雀

小原女の沙ものうえふなる蝶一ツ　南仲

原野の足あて喰ふれる蝶　タンハ　吐丸

蝶に二つ跳ねて田の傍　自糸

あるるあるるとよりて蝶　サヌキ仁尾　宗徳

足ふさをあるのあるて田の糸　陸奥竹炭　五陵

ものの傍ひけるよりの糸　日向　明之

蝶寂寞を姫　仙戸　國村

田愛

蛙

る力

蛙

馬力宮寺湖水寺寺[illegible]　出羽大鏡　生得

杉の杜をはなれ出るや初蛙　はるの山田　山東

なく蛙彼方の不足なるかな　はアニ　菊二

若原さくらの小峠蛙こゑ　ニナノ　百山

なく〳〵ありあけの月蛙　俳後　一色

庫裡坊主の眼のまやなく蛙　はる内　椿窓

花

植物之部

未ふかき花の[illegible]　はる　千影

花に見る笠やはきも一下呂案　タニハ　野場

花の木ぬすむ[illegible]ひの杖の孫　自樂

花を見に[illegible]小盃　立

花よ春ても[illegible]　立出

一日をめぐりて[illegible]の為　立

青空や風なき花の只[illegible]　子雀

顧みれば[illegible]は牧水　杉翁

みてゐるや[illegible]熟て西東　ナニ六　一學

花さそ杖ハまきて天[illegible]　如々

いせうの歩けて七日花を友　皐物

[illegible]ふくき花のあり　俳後　種一

杖ハ[illegible]ふあ物おそ月　幸後　雪風

花の山神おろあく佛[illegible]　雪香

櫻。

念佛はとなへよろこびの
京都の名所より高一尋有れ　出羽　風尾
北山乃雲に捨てをるよりう　ロ　志成
ゝなる中ふ初起もそれの後　ロ　五桐
さそうより出一かなつの夕　ロ　井眉
人住まるいなさぬ　六瞽
末れまでの住い新ゝ桜　其梅
延ゝぬ牡ゝ和桜　尼角
地ゝの花の梅も痛てゝ櫻　具鶯
一えゝ小きゝわれゝ　五調
三月の風もさそのの白ひる　自乐
　　南國

櫻
若葉
黄叶
五形

眉毛のかゝ一桜ゝ　岸和田　糸桐
小ゝゝ　作良　青亀
牡ゝ流の小ゝ桜外　江良鶴山　巴長
陸ゝ桜一日ゝ　出羽角間　奈保里
初ゝ水の味ハゝ　ロ　以輪保
さゝ日ゝ　ロ　花鈴　芦舟
桜末ゝ桜ゝ　岸和田　利秋
家和ゝ　茨
つゝゝ　桜葉
黄叶ゝ一節ゝ　出羽　秋鈴
三四尺ゝ　ダン八　出羽湯島　吃丸
　　林山

椿

山茶を椿の花かな　俳後尾花　麦二

堇

なつれ水花紙くゝ来いと堇　迴文　南竹

梅。

枝の香けさ咲う為堇　其磐

徒歩恒よりくゝ喫を梅くゝ　走民宮松　五雲

蜂くさの梅ハ長くて　フレマ　喫生

宵中や白ひいらて根なし物　花秋

春午分七八分をうめ花ムツ　与人

芽ふふふうめをやり生て　自来

山くゝ栄れおやや物白ふ　伊丹　茶来

和梅ゝ枝の多ゆゝ山ふ下　其梅

朝ゝけや豆腐なくゝ原梅のお　出羽舟岡　嵐朝

枝をゝみをてハ梅の主ゝゝゝ　出羽　可朝

弾ぬゝれ新を来くゝの日和　内花鈴　文好

梅咲くゝふゝ柿ゝきおくゝ　同　宗保里

うめよゝふくゝ人を切きけゝゝ下　江戸　碩翁

よそハいゝ一知ゝゝけゝく咲　口　對山

宇治門文庫の色よ

梅のふゝ海よゝくゝゝ　加賀棟梁　花朝

柳。

柳の明くく皆五月は柳うゑ　秋田侍従　御風
さゝれよ柳の柳考みそうは　文好
又すゝて日は陸こ田の柳は夕カスス　九杉
侍ふ柳こ柳こ　之霞
きそう秋の末は柳ふ　度考　延史
ゆき末せよと柳こ　下河　羅風
柳末又ふやゆ小簑を育ふ　自楽
鳥は多のくうたやまの末　保国
拾明くく末は黄せ陸八行ふ　土井敬代　狐山
多の花は末きを菊よ賀しく　井古
海棠の花は陸ゆくむやゆの之　自楽

梅末

末芽。

葉花。

海棠

桃。

桃月人のゆくんを愛うう　秋田　霞暁
待を待る里よ先々桃の花　信濃福山　古井
ゆうはて咲てうく芳は也　五出
莖立にふつまうまあれ　唐サキ　枝柯

藤、

莖立

夏

夏うゝ乾坤

なうやきと水うの秋ん　楽土
大船うは柳うゝ夏の海　ツルカ　杉夕
芳くき秋水の流く四月ふ　笙歌
秀俳きふうよ四月は朗　芳ふ　何末
四月は芳年きはるよ柳の為　辰角

五月、

鳩の巣の樹皐月のさかり　出羽大鍵　仙友

六月、

水無月やひとく清きこゝろの信　芳裔

夏月、

夏月やきつゝふる雪は省　江戸　僕物

月さへに松ハよきもの五月雨　林山

夏月雨やゝ小板くもぬ鑿はれ　ツレマ　東指

みれ中の系ようこそ有り雨　江戸　巴長

さみだれて文鋒盡き小雨　伯後　富雪

さ夏なるの時やゝ小雨はれ　自樂

清水、

清水わかやゝ信せるさ文迫　洛　茶彦

夏月、

夏月やこゝ安けやこの月　木海

夏深くなつて月数の遠安け　老後　洲人

夏夜、

夏の月数遠路ふとひ来り　作名　秀甫

なつの月数のもてこれたれ　古井

みゝ新やゝ蟬も鳴て人よう　東指

遠数や猿よりあるる美ほし　イツミ　千拙

雲峰、

積もくかもくこゝ山峯　ツレマ　曙堂

富士筑波おもけもてこの峰　月江

市中は人気もつやきれ峯　り柳　雀林

涼、

癖よなくて人のあるを知涼　玉屑

くきれとまてめけまく　日野　士明

ゝ風やあて涼めれの上　亀友

海をうてみくもの藤門涼　出羽板谷　朗明
行る青みすしや水海　イワミ額　常鶴

すしたたるやゝ小鳥も仲好　池田　一扇
麻の匂ひのちらるまくら　井眉
根なし雨宗祇の宗長の昊　仝
筆すて妖貴妃ねむる夜　扇
桐の陰いはもれ月のぬき迹　仝
縹世ちまうるうるる　蝉　眉
赤鳥井見るも林のけうき　仝

俳新の海を笛洗ひ　扇
摂津れ蓮小枝を割らせく　仝
女房ふるふるきれ蝉　眉
粕殺咲くきに知る人の恋　仝
油五升ずつ人の恋　扇
ちしまうと掃く辞き月れ蓮　仝
寺れ月をとる日くし　眉
翁の獻ずるる冥や　仝
筆をわすれわすれの舟　扇
八重れ紅の神のうれく影　仝
仲をかんなきも海老れ　眉

突天、　常天の俳諧一万人集と号す　井眉

生駒の郡

蕎、

一蕎を常の料よ雨の中ふる　茶秀

夕べの小雨なりてとよ蕎　（俳後福山）李朝

常見の山ハ蕎いて格の雲　一扇

蕎刈の後ハ蕎の花ふる　呂調

蕎の花のちるとも見ん　出雲　嵐水

蕎やくもや田の蕎　（秋田サ年）八聲

朱母の蕎の粉ふるる　タンハ　掬水

ふるるき八ふるき粉の蕎　イヲミ　大牛

蟬、

薄戸ハ物をはくるる蟬ハ　（秋田アニ）八左義

月夜ふ蟬きもくと枝枝を　長斎

山口や蟬の小一時　（イナハ）呉嶺

山蟬の時ふ二日月　九人

一ツ木ふ蟬の枝ツヒて　柳松

牧、

牧ふ牧ふ牧ふや俳諧は　共雷

花且見

下村ふ花且見ふ蔓ハ
蔓ふ蔓ふ章書ふ花且見ふ蔓と
ふ蔓の花ふ一説ふ国菖蒲を
ふ蔓ふ俗ふ菖蒲ふ蔓と
後ふ八ふ金葉集ふ俳ふ
あやふふ

琴、　　作長　李甫
牡牛、　　伯後　藏六
青鷺、　　自樂
水鶏、　　ツレて　雨柳
水鶏巣を造のあなる蓮の門　一色
行く子、　　ナニハ　吳嶺
きのいくあ鶏きよりの青のうち　月雄
さて人の角あれとりけくよ　亀友
行くよおけきくう夏同し　自樂
鷹のうくれるも峠れけく　東指
ちくくとれあうくねめけう　冲吾

雁、　　ワカサ　曼庵
鴨、　　尾侯　足彦
きくに鳥よりなれうき巣下　　北後　三秀
鴨ちくけあくあのあ巣　　
美くきにおくく行舟うる　　
葉物よくよくれうれ鶴の鎌　　里芳
物つくれる逸子れ間くきるれ　　伯耆山　可友
うくれひの供をすれくふく活　　月巣
雨子鳥あくれんるれを後上　　羅文
逝ちるうる茶の下ぬや深ちう　　尾侯　秋光
深ちく油うれ来う邦　　秋田大鉞　杉蘿
人牛く茶て峠くれんと鳥　　江戸鉞　三千煌
ちを侯のれくうのふくんこう　　江　吳水

家子鳥、

[illegible]の家もこぼれて栄子の[illegible]　イッシ顔　小帆秋

かしこうこうふくしに只杉と杉　五出

角降ふれもあるほどもふる　杉窓更　蓑六

沙さしわれのうしひてちくさく紙　李峰

ほくさく蔦なるもあるの時をムツ　西芳

子規寺一とうのおさるる事　タニハ　梅爰

木や人を選ぶふくし時鳥　自楽

かくさく二のあるをもふる　仝

いくわまや西をくくる紙を　王子　八亀

きくくく木の西あるを時うるまた　亀友

[illegible]　子雀

二日月ばくるものふくきく

鹿の子・　鹿のよはに成て鹿のよはに成て　野揚

夏植物之部

若紫・　若やぐ風の吹なる青紫うる　シナノ　茶紫

物ちくくあるよりやあの紅　東指

六人の恩うけてけりまの葉うあ　出羽十二所　古久二

わう紫して明るくく佛　生　椿窓

山ぶしまにくくくくく夕美紫　自楽

苔くく鳥くくくの一をある　卦鵬

ふ苔くや林よ咲なる月ばの花　馬笑

大事くくくくく

年重盛重と後を

姥藤の打てうるるのさくら　花朝

不二うれはは菖蒲ひくやこしいく　クルノ　慶五

仏恒の青みたさく菖蒲　亜竹

うはるるや牡丹つなる解の石　仏角

卯の花の一ト雪してはよくも　出ル　素練

さう仏はたちよりきよえ紅のうち　可友

三日月と姿くくよこと竹　此石

菖仏や薩摩せのあさかけ　出ル五月　李悦

仏のみれ松ちしうるるる　口名之　曽梁

茅屋の下や姫人文され　自楽

茂

牡丹

牡丹や赤き牡丹は只美体　仝

奥も氣の辞まはけて咲ちる　美色女

牡若

蓬ちめ八重れてしよ　牡若　アキ　吉性

二ツ目もちさくあるかくうる　今津　如髮

青くさふ山もなる多　牡丹　其磬

山梔子

山梔子のちれたふの止　エト　玉光

人の手れつる雨の止

蕎麦

蕎麦や刈をはさけて蓮の花　五出

蓮

まんろに参ち　蓮のうき葉　朱夜

青梅

青梅のちこしふきも知ころ　小杭秋

河骨

河骨は花のひくよ傾ひ　土明

八千

栗花落　其梅
楸の色　野楊
夕貞　井各
茄子　イヅミ額　斎藤
苗代　岩和田　利喬
田植　タニバ　真秀

ひやひや眠さましよ蕎麦花
赤野木の蹈うゝ栗の色
花楸くゝもはは能う邦
夕貞の花ひゝかゝる水　車
種まくなゝ花ゝ茄子小
なゝ子の水くゝみる
月ゝ山よりゝめ田植の笠てし
田うゝ笠作蕎麦やゝ後
稲苅て堅田小きゆふ人うゝ

千崖
井九
笠歌

林乾坤

月

アキ　萬先
松ヶ　布帛
ふた　鹿洞
カヒ　漫く
一色
自樂
仝
仝
亀女
自樂
仝

いなの花さゝめて笠之月
名月や一里出て落の宮
名月や更て覚ゆる京の暗
俗業や名月祥し人の親
名ゝや笠よりしゝ光のよれ
名月やうめ梅そ小の陰
名月の照ゝ月も行ひる
名月や一二とゝふと萩てき
山ひゝくゝきて竹ゝ小の月
京の月ゝ人のさわゝき
小ふ乃つゝ人のんひゝくゝ

繪行器

月形の行器に生柿白糸絲
なと入て杉の子模様の
物もまた行器に絲行器に
穀倉の新を祈るなるべし

秋

月さしいれて寒もあるらし　佛水（古後）

居の月屑をはらはのあるやうに　太節（下総）

物あるきれをぶらさりぬ居のう　笙歌

一夏ハ寒ものもてはやされて月　子雀

川柳や耳うめけり秋の宵　芝山（江戸）

ふたものまてうたうたう秋の宵　張角

秋見和歌のうたげは樹うたふ　五雪

常盤木は中より住ても秋のうし　自樂

きくものきくものなくて秋は寄　仝

初あきや情やもゝ姉あれハうき　有隣（秋田）

秋の行ふるなりて姉やの　南賓

釣物は痩おけうたれ秋　亀友

きくも秋の音ふるたる瓜の皮　樂土

涼さた桐ものやさの秋　花栖

きくの秋人のうきたなりよ　子方（常陸）

糸敷きはしりもの秋の風　素月尼（下総）

きれいなる行ものなりよ秋の宵　伯先（ニヤノ）

朝寒のうるわさの下宵　自樂

秋風
七夕
朝寒

初雪
名月
八朔
霧
露

行秋

竹むらや初雪ふるまくさ世　自樂
やすらへ名月の善光寺　其梅
八朔やえんえん蛾風仏名（イキ）　漢帆
霧ふかや馬ハまくろの遠　亀友
露はなやあの上に新米（ムツ）　冥く
玉露よ目もむとうるく　雨齋
黄の雲小粒ふやうまれひろう（ハリマ）　呉山
竹むらに出て風のすさよ萩の雲（フセン）　何求
雲消てさくらや桝の名は　挿後
行秋柄ふるうるうるうるの白　自樂
行秋のめるを見ゆや萩の様　利喬

行秋を風の中うえゆるなる　紫大級　幸齋
沢の水暗一夢をゆく秋を　自樂
行秋となりうるうるの小舟の煙まく　仝
山かつ秋変木ふるて秋を行　仝
ふるまくよる秋をけふ畑つくて　仝
行秋やせの赤のちりくる日（イヨ）　起秋
ゆのりを木槿昭くやまひ　秀色

南カ取

黄蜀葵花（とろのくわ）

秋月

人の世や行かぬ秋月のかなしき哉　一茶（シナノ）

あさぼらけ雲晴れそめて秋の月　懐川（出羽酒田）

あさぼらけ一日まの一ト入く　自楽

女郎花

通ふ林の迷ふ女郎花　小金（下総）

朝風の折ふる男をとめ　雪彦（秋田角間川）

萩

萩折て客人僕ことゝかと　楽只（越後）

ちらして客人迷ふ萩のと　利秀（越後おぢクツミ）

芒

日ぬ中を懐しうて芒かな　星夕（ツシマ）

夕あうをそのけいふ　石水（出羽）

郊外吟行

俺ゝ侍ひを芒とくるや　君竹

こ伏の寝たるて林茅の風よ家をそゝ

月を梅ゝ分別ゝく　棚まよ夢ゝ

中ゝて糸瓜ぬそこゝ侍ゝ

造化の神乃ちゝ夢ゝ乃

水をお女ぬ影をひゝ風の方かゝ

憂人の足跡の侍ゝ恨ゝ

打ゝ侍ゝこゝ侍ゝ

ゝふ角ゝや

ゝ月ゝ

糸瓜　池田　迷英

はまの宮わたりて
合歓の花を訪へて

菊咲めば桂をせう只姉一家日　曙堂
月よりも雲の叶ふしく　行脚　五雄
林の夢殘れば山うみよ　堂
はつ〳〵枝の実落るなり　佳
痩て気小春桃も風のあを　き
夕日色〳〵崔の籠えふ　佳
よりは代のうらう屋を十りう　堂
桜の雲を下戸よりまれ　佳
思ひ巻えなきん気ふ心　き

無よさ〳〵巻も四五日　佳
借金に無つ本家ばさ〳〵付て　仝
孫八おなふ金を又に　き
歌よみの癖とて小ふ義と　佳
花火よりを流る三日月　堂
いまの宮に作り買ふ中の市　佳
やま那の新よりは月とふ　き
きのふ思つきはよわく清水　佳
うらかたなりて苺赤ふ　堂

山のふもと門歩して柔の花　作者号前　秀甫

いろ〳〵そめし紅葉の手ぶり　作公弓削　雲甫

ふきぬけに春のさびしいかなるか　作長服部　帰来

糸瓜　糸瓜かけつくれる竹の庭　号和田　朱郭

朽葉　十かへる朽葉ちるとあるは朽葉坂　朽葉

桐一葉　朽葉ふる月に千年桐葉　子移

紅葉　春夏を地に落ちぬ相一葉　千枝

日にうるかるやうなれ葉　ヨハリ　糸瓜

うるはるやうなれ葉の中ぬれ　完来

紅葉　紅水のきんらんふるしぐれ　ナニワ山　蓋く

色かへぬ朽やゆ一木は浦ゆゆ　星堂

木犀　木犀や望の日うの姿うる　古井

花野　明〳〵小物よりのまくれみゆ　イツミ　花石

枯　うち枯やひとうふきぬの鳥　自楽

萩　あし萩や芦ゆ赤ゆ星ゆる　木先

虫　きりぎりすなりぬ朽ぬりぬ　月居

宇宙やうちうちの茶燈　古井

夢ゆをいつ来ぬ朝の雲　蒙ヌコミ　可貞

鴫　千鶴
鶉　世石
鷹　秋水
　　汝川
鳩　吹　茂椎
巣守子　自樂
初鮭　仝
鮎　仝
鹿　井左
　　菊之
　　井酒

鹿と走めて水を流れてとまれる　君竹
おく山や雪のつくなる音の無　佳城
鹿笛や鳴なきものゝ法に保し　自樂

みゝく生類

千鳥

物のうを追つけてなく千鳥　蒼乱
小松ちるゝ伝よむ音なり　其梅
ふる山の峰に雪はちるなり　淵貞
ちゝうたつ物を次ぐの初音　千野
鶴もこゝに遊さうく鶴子島　鶴笠
をしらぬ幻をうゝ第一不　仁洛

鶯　鶯

鴨　自楽
細代　弓雄
鶴鴨　其梅
みそさゝの昔の古恒みゝ法　自乎
ゝゝゝの師走ゝゝゝゝゝ　石昂

枯尾花　ゝゝゝゝ月ゝゝゝゝ枯尾花　出羽　吐山
枯野　十月は枯のゝゝ夕日ゝゝ　門替　亀楽

枯ゝてゝゝゝゝゝ

神楽

かぐらハ内裏にてはるかなる里神楽にてなくしてその神楽を小忘衣山あひあと第人の装束あるほどをかなくをくるまにて舞ひのかぐら是を二つひとつ宮あり則嫁物の寄く形儀とあるもおなじ

時雨

年〳〵の時雨かふるは
初けあるとなくなくは
山鳥は年やうかと初けあ
舞のかと二人おくさよ
月ひとつ杉をなくなく
宇佐の浦〳〵
秋田
梅月

野場
奥眼
亀友
呉山
利斎

冬

初けあるは水は降るは
みなくなく年は山の水
婚申さは鶴も路もふき鳥
すなくなく柳新や浦のみ
みなくなくは水
新崖みなくなくは根乃吉
山住ハ鶴の勝よみは月
時雨みなくなくもなくなくみの
水はなくなくはなくなくは
耕なくは小春なくなくは
正月の物もなくなくは

梅價
ムツ
多よ
自楽
楽只
伊後
席道
井眉
辰角
杉雄
自楽
仝
仝

冬月
冬至
小春

風

十月

俳炭

寒霜

霰雪

さゝやはらぐ[illegible]なれ　同集
まゝにあハや路の信ふる　自樂
十月や垣根の蓮文　さく
さゝるおゝ毒よかゝる綿の帽　仝
田の鳥は帽ゝこゝ炭　俵　笑譜
炭はもの中にもわんうつの山　井先
菴の根はゝまゝになるや炭ゝゝ　自乐
家に入るあきやゝゝゝの毛の立て　仝
帳ゝゝゝ家ゝゝゝ人ハ誰　曙堂
[illegible]ゝの[illegible]ゝ白ゝゝ[illegible]の表　出ね　林山
もの[illegible]ゝゝゝゝゝゝ乃翁　保國

赤鳥ゝ[illegible]ゝゝゝ霜　伊倉吉　青城
ひゝゝきゝゝゝ霰の[illegible]ゝ　光春
竹の末は芽ゝ[illegible]ゝ　をに　菅雅
初雪や白ゝゝゝゝ[illegible]ゝ　[illegible]
雪ゝ雪ゝゝゝゝ　出ね　柳後
水仙のゝゝゝゝゝ　素考
傳雪ゝゝゝゝ小蓑の後ふる　自乐
雪車を拵ゝゝゝゝゝゝゝ　仝
釜にゝゝゝ湖ゝゝゝゝゝゝ　龜友

湖北竹内氏小傳そのわかて二十[illegible]自[illegible]

雪一丈七八寸に成りて馬駕籠も行かず
かつぎて旅人を背負ひ手おひを負
ひて近村に出る所路を雪にて
村駅の世なれいまだ林しなれとていまだ一村
を雪をしひ[illegible]を験ありて
二丈五六尺も雪の積りたる[illegible]
[illegible]雪の成るにつれ[illegible]
帽子を男子に[illegible]明れば[illegible]
社内に年入て[illegible]

月花のえもいはぬ雪行　探草

師走
義しかれども師走は菜大根　塊義
此道人も[illegible]　自楽
古暦
古暦月日[illegible]　仝
年末
[illegible]木推る人[illegible]　仝
[illegible]　楽土
行年
[illegible]年の減る
[illegible]年を[illegible]文[illegible]入[illegible]　高岡
年も[illegible]行火着　江戸　道意
[illegible]年やの[illegible]の[illegible]者　自水
[illegible]年[illegible]ぬ[illegible]や[illegible]　仝
[illegible]や[illegible]　仝
[illegible]一[illegible]の[illegible]　仝

年ゆくるものあるかくとをしらしハハ　五峰
けしきのさらぬ山ふれ行の苔ナレホ　井月
さくらやはなの光りも年ゆ末　門月　来雅

四季神釈衣食思財之部

更衣

月よゆくとくふるいとゆめまぬ　仙タイ　乙二
大仏の言ってやらん更衣　寒杉
木もなもとふるふるふる衣く　一色
よれしくの汗ふくふる文衣　其磬
初給帽子はは迄えて通る　花栖
まさるの戸はかくはるる初袷　ツルカ　杉夕

帽子
頭巾

笠の風盆帽子ふ白しまを　洛　其砂
さよまきみるは朱地の如来の奥ふ　月泉
懸つきくきくく氣ふるあを袷　子雀
蕃の好ふ行ふ行ふ行ふ　笛三
ふる年やきぶ宮きりは久ふる　杉翠
叫ふ来ふ和の声ふ頭巾　ツシマ　晋杉
夏ふ大ふるふるふる行ふ不二袷　八亀
杉杉の好ふくくふ門　帳　自楽

牧帳
初年
頭巾
不二袷
帳
夏
花御堂
魂祭

夏羅や寒ハ人の上ふ　江戸　度風
ゆれ叫の杉ふのふ花御堂　左人
魂棚ふ寒をおふふ寒ふ　ちわ　成雅

徘叮　きち叮は都を江の数多し　自乗

月見　月見てもみハ細うゐ行くき　笙歌

札納　札納ハ武蔵村ゝ立よりゐ　亀友

日傘　あ付日傘ゆききまてれ　光春

傾き不二ハ雲ゝる日傘うゐ　柳後

青簾　ゐとゐに木格ゐ行やまとき　義孝

扇　扇ゐゐゐ涼のゐきき　子雀

衾　月ゐて移ゐゐゐ衾ゐ　万羽

只出　只出ゐ折ゐ笑ふゐ　御風

火桶　ゐの枝をゐゐ火桶ゐ　江戸　寒偏

氷飯　氷飯や暁のなゐひも風の筋　秋田　岑梅

茶喰　遠生の枝よれ行おゐ茶喰　北後　仙斧

複　複ゐて寝て笑ふゐ不二の山　江戸　桂羅

昔日を行よあゐふ行　自楽

来床人よかゐぬまよ行　子雀

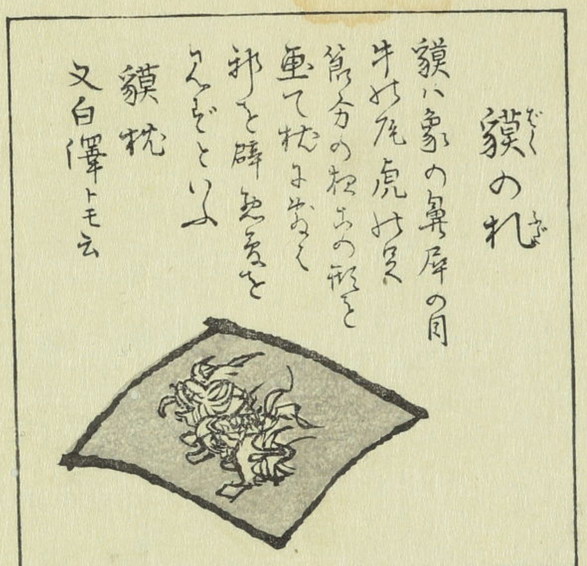
紳祖　信ゐ法門ゐ茶行の　亀友

釈義　絶ゐ法ひゐゐ法の花暦　仝

意　いつをちきゐゐの夕ほ花有門　仝

毎年　風を花ゐ武者の盛ゐ　仝

述懐　抱ゐて九ゐ菊の細　仝



杉先木をもよ作て
見に春多し　和民樣年　馬兼
韓信僕
惟作の江うも作きんうれ　仝

色紙
短冊　御集冊摺物彫刻所
京師高倉通四條下ル町
菊屋平兵衛